



防災コミュニケーションセンターの屋上に設置された10kWの太陽電池モジュールHIT233

避難住民の安全・安心を支援する
防災施設の創蓄連携システム

岩手県矢巾町の防災コミュニティセンターは、消防署機能と地域活動支援機能を備えた施設で、災害時の防災拠点として位置づけられ、避難者の収容にも利用される。ここでは、グリーンニューディール基金制度^{*}を活用して、太陽光発電システム10kWとリチウムイオン蓄電池15kWhによる創蓄連携システムが導入された。災害時には避難住民を収容する研修談話室の一部照明と非常用コンセントに電力を供給。消防署の自家発電設備に依存しないため、署の機能を損なうことなく、自立電源のみで3日間、避難住民を受け入れることが可能。また、平常時は太陽光発電システムからの電気を蓄電池に貯め、余剰電力を主電源に供給することにより、系統電力の使用量削減に寄与している。



矢巾町防災コミュニティセンター

■防災拠点太陽光発電設備工事
所在地/岩手県紫波郡矢巾町
施工主/矢巾町
設計/株式会社久慈設計
施工/岩手電工株式会社
工事竣工/2013年3月



災害時には避難住民を収容する研修談話室



15kWhリチウムイオン蓄電池



非常用コンセント

主な設備

- 太陽光発電システム HIT233×44枚 (10kW)
- リチウムイオン蓄電池 15kWh

^{*}グリーンニューディール基金制度
東日本大震災を踏まえ、再生可能エネルギーなどの活用により、災害に強く環境負荷の小さい地域づくりを推進するために、環境省によって設立された基金。



町民医療福祉センターの屋上に設置された20kWの太陽電池モジュールHIT233

町民医療福祉センターの防災機能を
創蓄連携システムでサポート

奈良時代から金の産出地として名を馳せていた宮城県涌谷町。昭和63年に建設された町民医療福祉センターは、国民健康保険病院と老人保健施設や訪問看護ステーションからなる、涌谷町の医療福祉における拠点施設。涌谷町の中心部は江合川の流域にあり、内水や洪水の被害を被ることも多い。このため、岩盤上にある町民医療福祉センターは役場本庁舎が被災した場合の防災拠点としても位置づけられている。ここでは、グリーンニューディール基金制度を活用し、太陽光発電システム20kWとリチウムイオン蓄電池15kWhによる創蓄連携システムが導入された。平常時は太陽光発電によって蓄電池を充電し、余剰電力を一般回路に供給して系統電力の使用量を削減。災害時には、負傷者を収容したり、災害対策本部が置かれる研修ホールの一部照明と非常用コンセントに電力を供給することにより、病院機能を損なうことなく、防災拠点として機能するように計画されている。



涌谷町町民医療福祉センター

■防災拠点太陽光発電設備工事
所在地/宮城県遠田郡涌谷町涌谷
施工主/涌谷町
設計/株式会社梓設計
施工/株式会社ユアテック
工事竣工/2013年3月



災害時には避難住民を収容する研修ホール



15kWhリチウムイオン蓄電池



非常用コンセント

主な設備

- 太陽光発電システム HIT233×88枚 (20kW)
- リチウムイオン蓄電池 15kWh
- パワーコンディショナ 10kW